

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいずジュニア大曲（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月19日		～	令和8年 1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月19日		～	令和8年 1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月31日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動学習を行うのに十分な広さの教室や部屋数を確保している。 基本的には集団活動だが、個別支援が必要な児童は空間を分けて支援を行っている。	利用児童の安全面や動線に考慮し、部屋を分ける、パテーションで仕切る等、個々に合わせて安心・安全に活動出来る場づくりに努めている。 また利用児と指導員のお互いの動線を考え、安全な物品の配置をしている。	児童発達支援を利用する児が増えているため、個々の特性把握に努め、安心・安全に活動出来る場づくりを継続していく。
2	保育士・児童指導員・理学療法士等、様々な専門職が連携し、支援プログラムを作成している。	利用児本人や保護者様のニーズに合わせて計画やプログラムの立案をし、職員全員が統一した支援を提供出来るよう、職員間で練習したり、毎日欠かさず打合せと振り返りを行っている。 また集団療育・個別療育の必要性を判断しながら、利用児に合った支援の提供に努めている。	成長した点の共有を保護者様に欠かさず行くと共に、利用児の得意・不得意を把握する。 支援の成功・失敗事例を関係機関（保育園等）にも共有し、統一した支援に努める。
3	避難訓練、虐待防止等の研修を行い、日常の児童対応や緊急時の避難方法等の安全面について、訓練や確認ができています。	定期的な避難訓練の実施、緊急時の連絡先、持ち出し品の確認や用意をしている。 避難訓練を通して、気付いたことや改善点などについて話し合い、安全面に十分注意している。	様々な研修への参加、定期的な訓練の実施を置こうなうことで、安全に安心して過ごすための環境作りに努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用開始時の担当者会議は行っているが、定期的な関係機関との連携や情報共有の機会が確保出来ていない。	保護者様経由でお伝えしていることが多く、保育園等関係機関への直接の連絡が少ない。 児童発達支援のサービスを知られていないこともあり、相互理解が出来ていない。	連絡帳や送迎時のやりとりを継続していく。 保育園等関係機関への訪問や情報共有の機会をつくり、相互理解を図ってきたい。
2	保護者同士交流する機会が少ない。	今年度はペアレントトレーニングの開催がなく、保護者交流の機会が持てなかった。 また、授業参観も実施しているが、仕事や家庭都合で参加出来ない場合がある。	保護者同士が交流することで情報・意見交換ができ、不安の軽減や安心感が深まり、また保護者同士の絆も深まると思われる。 ペアレントトレーニングや授業参観を設け、保護者同士の交流の機会を検討していく。
3	ヒヤリハット記録について共有ツールが不明瞭。	ヒヤリハット事案や気付いたこと、改善しなければならない事柄は話し合い等の他、日報に残しているも、記録や報告についての体制が曖昧になっている。	ヒヤリハット事案や気付いたこと、改善しなければならない事柄は話し合い等の他、日報に残している。 今後、社内でヒヤリハット事例集の作成などの共有方法を検討し、再発防止に努めていく。